

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

特別支援教育専攻  
／津田 芳見

### ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

#### 1. 目標・計画

目標: 発達障害児の認知機能について研究する。科研費特別支援教育部門に申請をする。

計画: 「発達障害に関する認知行動に関する研究」

対象: 軽度または、境界域の知的障害のある発達障害児とする。

方法: 発達障害に関する教育・医療・福祉などの関係機関と連携し、アンケート調査、認知機能検査を実施する。

#### 2. 点検・評価

平成25年度厚生労働科学研究費補助金(障害者対策総合研究事業)「発達障害児とその家族への早期からの切れ目ない支援のための地域特性に応じた支援システム構築とその評価に関する研究(25170501)国立保健医療科学院地域保健システム研究分野統括研究官加藤則子氏代表の共同研究者として申請したが、獲得はできなかった。発達障害に関する早期発見と地域システムの研究は興味あるテーマであるため、今後も取り組みたい。

##### I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

#### 1. 目標・計画

目標: 特別支援教育専攻院生定員の充足

計画: 近年学校現場において特別支援教育へのニーズの高まりから、現職教員の院への入学が増加してきている。

そこで、県内公立校を訪問し、学校へ働きかける。

また、長期履修生も増加の傾向にある。できるだけ、障害の関係のある医療系大学卒業者の中から特別支援教育専攻へ

入学してくれるように働きかける。

#### 2. 点検・評価

今年度に関しては、院の受験生及び合格者は、定員を上回ったのであるが、実際に入学した数は、定員を下回った。看護系大学への働き掛け、各種イベントでの広報、発達障害シンポジウムおよび従事者研修会での広報は、回数を重ねており、

鳴門教育大学が特別支援教育に果たす役割は、地域に認知されていると考えられる。

今年度も現職教員が、数名おり、院生の就職も順調なので、特別支援教育の専門性を磨くことにより、さらに院生の充足に働きかけていきたいと考える。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ①学生の学生生活、進路、悩みなどの相談について、丁寧に相談に応じる。
- ②発達障害の診断、治療、認知機能、医学的支援、医療と教育との連携などについて理解が深められるように授業に取り組む。
- ③学生が主体的に取り組めるように課題演習を授業に取り入れ、授業改善を図る。
- ④連合大学院にて、博士課程の学生の指導を行う。

#### 2. 点検・評価

- ①学生の学生生活、進路、悩みなどの相談について、ゼミなどをとおして、そのつど丁寧に相談に応じた。また、随時研究室訪問、メールなどで応じた。
- ②発達障害の診断、治療、認知機能、医学的支援、医療と教育との連携などについて理解が深められるように 授業に取り組むことができた。
- ③学生が主体的に取り組めるように課題演習を授業に取り入れ、授業改善を図り、学生が自分の経験から学んだことを積極的に発表できた。
- ④連合大学院にて、博士課程の学生の指導を行い、博士号取得に向けて最終段階前段階までこぎつけることができた。また、博士課程入学希望者へきめ細かく対応し、入学試験を受けれるようにサポートした。今後も研究生として指導する予定である。
- ⑤入学してくれるように働きかける。”9月26日徳島大学医学部保健学科へ出向き、教員と面会して、説明した。また、徳島県と共催している発達障害シンポジウム「発達障害者シンポジウム2012」にて、院修了生の研究の中から「発達障害早期発見・早期システムに関する調査」を発表し、鳴門教育大学における現職派遣院生の研究とその意義についても示した。このことにより、本学が特別支援教育と地域保健福祉と連携協力し、教育的学際的役割を果たしていることについて広く啓発できた。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ①学内外の研究助成金に応募する。
- ②研究テーマである「発達障害」に関する地域連携システム、認知機能に関する研究を発展させまとめて、学会誌に投稿する。
- ③院生を指導し、学会への発表、論文発表を行う。

#### 2. 点検・評価

- ①厚生科学研究助成金に共同研究者として応募した。
- ②研究テーマである「発達障害」に関する地域連携システム、認知機能に関する研究を発展させまとめて、学会誌に共著者として投稿し、The Journal of Medical Investigation VOL. 60 NO1. 2に掲載された。
- ③院修了生を指導し、全国学会への発表、中四国レベルの学会へ発表を行った。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ①24年度は学部入試委員会委員として、本学の運営にかかわる予定である。
- ②心身健康センター(精神保健相談員)として、学生の健康相談にかかわり、本学の運営に貢献する。
- ③衛生管理委員会委員として本学の運営に貢献する予定である。

### 2. 点検・評価

- ①24年度は学部入試委員会委員総括班副班長として、学部入試にかかわり、執行部の指導のもと、全員協力して、スムーズに正確に実行できた。
- ②心身健康センター(精神保健相談員)として、学生の健康相談にかかわった。近年は、発達障害関連の相談が増加している傾向にあり、高等教育機関としても、対応が必要となってきている。今後も、ますますニーズが増してくると考えられ、さらに先進機関の情報を収集するなど対応を考える必要が生じていると感じた。
- ③衛生管理委員会委員として会議等に参加し、運営に貢献した。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①附属校との連携は、実習をとおして、また求めに応じ助言協力など行う。
- ②公立校とも、実習先としてお願いする必要があるため、学校評議会委員などを務め、協力をしていく予定である。
- ③徳島県障害福祉課と連携し、各種委員会の委員などを務めることにより、協力関係を築く予定である。
- ④鳴門市とも、保健福祉の関連にて協力関係を築く予定である。

### 2. 点検・評価

- ①附属校との連携について、特別経費プロジェクト「高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実—附属学校機能の強化—」に大学側から参加し、会議などに参加して、助言協力をおこなった。また実習をとおして、また求めに応じ助言協力など行った。
- ②公立校とも、実習先としてお願いする必要があるため、ひのみね支援学校学校評議会委員などを務めて肢体不自由教育にかんして協力を行った。
- ③徳島県障害福祉課と連携し、福祉施設評価委員会委員などを務め、障害福祉に協力した。
- ④徳島県健康増進課と連携し、母子保健マニュアル追録検討委員会、周産期医療検討委員会委員をつとめ、母子保健、障害予防の観点から、参加協力した。
- ⑤徳島県発達障害者支援センターと連携協力し、「平成24年度発達障害者支援従事者養成研修会」、および「発達障害シンポジウム2012」を共催し、発達障害に関して、従事者への研修、地域社会への啓発などに貢献した。
- ⑥鳴門市とも、保健福祉の関連にて自立支援協議会会長を務め、保健医療福祉と教育、及び就労との連携協力推進に貢献した。ライフステージに沿った一貫した支援のためには、以上に重要な会議と考え、地元の鳴門市との連携協力のために次年度も続ける予定である。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

障害のある子どもへの特別支援教育には、保健医療福祉及び就労との連携協力が必要不可欠である。また、地域社会への理解を広げることは、特別支援教育を潤滑に推進するための重要な要因である。私は、前職が徳島県保健所長であったため、県との連携を重視し、さまざまな委員会や審議会の委員を務めてきた。鳴門市において、自立支援協議会会長を務めているのも、その一環である。このような教育のバックアップ機関に働きかけておくことは、院生獲得に直接的効果はないかもしれないが、本学の社会的評価につながると信じている。

徳島県との共催による「発達障害シンポジウム2012」および「平成24年度発達障害支援従事者養成研修会」において、発達障害者支援における高等教育機関としての本学の専門性を地域社会に広報した。また24年度から全学的に、発達障害に関する基礎基本を習得できるようにしていることを発表し、人材養成機関としての役割を確実にカリキュラムに取り入れていることを周知した。これらのことが、私の専門性を活かした本学への貢献だと考えている。